

# ロンドン大学と長崎大学がタッグを組み グローバルヘルスの最前線で活躍する人材を育成

## 「文部科学省／平成三十年年度「卓越大学院プログラム」——世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム」

### ロンドン大学と同じ

### 教育と研究が実現

このたび、文部科学省の平成三十年年度「卓越大学院プログラム」に長崎大学の「世界を動かすグローバルヘルス人材育成プログラム」が採択されました。今年度からの新規事業である「卓越大学院プログラム」とは、海外のトップ大学や民間企業などの外部機関と連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集した、五年一貫の博士課程学位プログラムです。いわば世界レベルで活躍する博士人材を国が全面的に支援して少数精鋭で育成するというもの。国公私立三十八大学から五十四件申請され、長崎大学のプログラムが九州では唯一、全国十二大学のプログラムと共に採択されました。プログラムコーディネーターの有吉紅也教授にお話を伺いました。

「グローバルヘルスの分野で世界最高峰に位置するロンドン大学衛生・熱帯医学大学院（LSHTM）と戦略的パートナーシップを組み、長崎大学とLSHTMの教員を中心とした共同研究を推進することにより、世界レベルで活躍できる人材を育成する環境をつくり出すというのがこのプログラムの大きな特徴です。しかも、一部の学生はジョイントディグリー制で両校から認定される学位を取得できます」。

ジョイントディグリー制とは何ですか？

「ジョイントディグリー制とは両校に学籍を置いて学び、卒業するときは両校から学位をもらう制度です。学位記も一枚の中に両校の教員と教材を基盤に組み立てられた共通のプログラムを受講することで、修了時には両校で認められた単一の学位を取得できるという

ものです。LSHTMの学長である

ピーター・ピオット博士は、エボラウイルスの発見者であり、国連合同エイズ計画（UNAIDS）事務局長も務めた、世界のグローバルヘルスを牽引するキーパーソンです。そのピオット博士が、熱帯医学研究所を有する長崎大学のこれまでの実績とグローバルヘルスへのコミットメントを高く評価し、パートナーに選びました。日本にはもって世界で活躍できる人材や技術が埋もれている、共に

トップレベルの人材育成を介して世界に貢献しよう、と決断したので。このプログラムでは、博士前期課程でLSHTMの講師陣らと一緒に、LSHTMの素晴らしい疫学・統計学や熱帯医学などの教材を基に教え、学びます。そして後期課程では、両校が進められる共同研究メンバーの一員として、海外の最前線のフィールド研究やラボ研究



熱帯医学研究所 有吉紅也 教授

ロンドン大学修士、英国オーストラリアン大学博士。英国セントメアリー病院、英国MRC西アフリカガンビア研究所、国立感染症研究所、タイ国立衛生研究所JICA専門家を経て、二〇一五年長崎大学教授に着任。二〇一五年より、熱帯医学グローバルヘルス研究科副研究科長、ロンドン大学日教授、専門分野は、エイズ、熱帯医学、臨床疫学、感染症学。

### 長崎大学の他学部の学生にも 学びの門戸が開かれる

もう一つ、この「卓越大学院プログラム」では、長崎大学全体を包括した動きもあると聞きました。

「そもそもグローバルヘルスは、従来の保健医療の領域を飛び越え、経済学、教育学、多文化社会学、水産・環境科学、工学など、あらゆるジャンルとつながっています。異なる専門性を持った人たちが日本の企業を巻き込んでこそ、地球規模の健康課題の解決につながる新たなイノベーションの可能性が広がるからです。そこで、他学部の教員でもグローバルヘルスに興味があればこのプログラムに参加し、学生を送り込んで共に教え、学ぶことができるよう間口を広げるといふ計画があります。その中で、卓越した研究プロジェクトや学生は資金的にも援助されます。今回のプログラムには、大学全体をグローバルヘルスへ巻き込む突破口としての意義もあります」。

世界中のすべての人々の健康で幸せな生活を実現するために解決すべき課題は山積しており、世界中の研究者が地道な努力を重ねています。そしてここ長崎大学でも、ロンドン大学とのパートナーシップをてこに、新たな「知のプロフェッショナル」を育てるプログラムが始まりました。

に挑むことができます」。

すると、長崎大学の「卓越大学院プログラム」で学ぶと、LSHTMと同レベルの教育が受けられるということですか？

「そう考えてよいでしょう。これまでグローバルヘルスの分野で世界クラスの研究者が日本から育ちにくかった背景には、この分野で世界を動かすような国際プロジェクトに学生時代から参加する機会が乏しかったことがあります。また、海外の大学で学ぶには、学費を含めた留学費用の問題などが大きかったのは否めません。しかしこのプログラムならば、常にロンドン大学と長崎大学の教員と一緒にチーム制で指導しますし、学費の面でも特別な待遇を受けられます」。

公募は昨年一月から始まり、すでに優秀な人材が集まりつつあります。



LSHTMと長崎大学のジョイントディグリー調印式の様子。前列中央／LSHTM学長であるピーター・ピオット博士、右／河野茂長崎大学長、左／北瀬熱帯医学グローバルヘルス研究科長。ちなみに、両学長の間に立つ赤いネクタイをした男性は鶴岡公二駐英大使。大学間の調印式に英国大使が立ち会うことは大変珍しいのだが、両国がこの締結に寄せる期待の大きさが表れています。

右がロンドン大学本部、左が衛生・熱帯医学大学院。世界のグローバルヘルス分野のキーパーソンが多く在籍していることから、内部で議論されたことが世界保健機関（WHO）などの政策に反映されることも多いのだそうです。